

## 郡上農林事務所の普及活動状況

平成 30 年 7 月 31 日

### 今月の重点活動

#### ■岐阜県GAP確認審査 (株)奥美濃プロデュースの農場審査

(株)奥美濃プロデュースは、夏秋トマト、ミニトマト、スイートコーンを主に栽培しており、GAPの実践により経営力向上に取り組んでいる。農業普及課では5月から岐阜県GAP確認制度の農場管理基準に適合するよう指導を進めてきた。

7月19日には(株)奥美濃プロデュースの農場において、岐阜県GAP指導員の資格を持つ普及指導員2名が農場審査を行い農場長他、法人関係者から農場管理の現状を聴取すると共に現地や関係書類を確認した。

今回の農場審査ののち、県確認委員会において確認されれば、郡上管内では、初の岐阜県GAP確認生産者となる。

農業普及課では、今後も岐阜県GAP確認制度に適合する生産者が増えるように、管内生産者や生産組合の支援を行っていく。



【農場審査の様子】

### 売れるブランドづくり

#### ■水稲 明宝気良地区で美味しい米づくりに向けた現地研修会を開催

郡上農林事務所管内では、美味しい米づくりによる地場産米のブランド化への意欲が高まっており、各地で米の食味向上に向けた取組みがなされている。

明宝の気良ブランド米づくり研究会では、コシヒカリの穂肥施用が近づいた7月16日に現地研修会を開催した。当日は研究会会員、農業普及課職員、郡上市農業アドバイザーなど7名が参加し、会員の水田を巡回した。現地では普及指導員が幼穂長や葉色を調べ、穂肥の施用時期や施用量を指導した。参加者からは、7月の猛暑を受け高温障害への対策について質問がなされ、美味しい米づくりに対する意識の高さがうかがわれた。今後も農業普及課では各種研修会や第4回郡上おいしい米コンテストを通じて、郡上産米のブランド化に向けた支援を続けていく。



【現地研修会の様子】

#### ■エゴマ 実需者と情報交換会を開催

7月4日、農業普及課が呼びかけてエゴマ生産者とエゴマ豆腐を製造する市内加工業者との情報交換会を開催した。この中で生産者からは今年度の生産見込みについて報告があり、実需者からは買取価格や買取量、要望する品質等についての要望が出されるなど情報交換・意見交換を行うことができた。

ある生産者から、エゴマは鳥獣被害が少なく、去年は農業所得が10万円/10aを超えた事などを示し「耕作放棄地対策として有望な作物である」との意見が出された。但し「手作業が多く規模拡大を図るには機械化体系の確立が課題」との問題提起もあった。

また、今回は関係機関も出席し、JAから収穫作業の受託、市から助成事業について情報提供が行われた。今回の情報交換会は、特産品づくりや地産地消を目的に開催したが、今後も継続して開催していく予定である。



【情報交換会の様子】

## ■大麦 坪刈大麦の品質分析を実施

郡上市では、農業法人や担い手農家が水田への転作作物として大麦を栽培しており、平成30年産は32haの作付けがなされた。栽培品種はミノリムギで主に麦茶に加工されている。

農業普及課では、単収向上と並行して麦茶への加工適性を高めるため蛋白質含量の向上に向けた実証ほを設置して、基肥の増量や出穂期追肥について実証を行ってきた。7月13日にはこれら実証ほから得られた大麦について、蛋白質含量などの品質分析を行った。当日は全農岐阜県本部の分析機を借用し、農業経営課革新支援専門員や農産園芸課担当者の支援を受けながら郡上市産大麦12点を計測し、実証結果を確認した。

今後農業普及課では、これら実証結果を作付者に報告すると共に次年度作付に向けた施肥体系等を検討していく。



【品質分析の様子】